

<既往歴報告書の記載例>

既往歴報告書は、素因・基礎疾患が影響することが多い部位に係る傷病、習慣となりやすい負傷、その他基金が指示した負傷・疾病の場合に必要な書類です。

具体的には、頸部・腰部・肩関節・膝関節・アキレス腱に係る負傷、脱臼、肉離れ、疾病の事案、その他基金から指示があった場合に提出が必要となります。

この書類は被災職員が作成するもので、認定請求傷病と同一部位に係る過去の傷病について、できる限り詳細に記載し、記名してください。

なお、医療機関を受診せずに売薬等で済ませた場合も、あわせて記載してください。

既往歴報告書			
1 既往歴はありません			
2 既往歴は次のとおりです。			
時期	傷病名	発症から治ゆまでの状況	受診医療機関
令和○年○月	左肩関節脱臼 認定番号 ○○-○○○○	柔道の試合中、対戦相手に投げられて畳に左肩を打ちつけ、左肩関節を脱臼した。 直ちに最寄りの○○整形外科を受診し、レントゲンを撮ったところ骨折はなく、脱臼のみとのことで、患部を固定され、湿布・投薬を受けた。 その後、経過観察のため定期的に通院し、投薬を続けたところ、10月上旬に完治した。	○○整形外科

公務（通勤）災害の認定を受けた負傷である場合、認定番号を記載してください。

注1 頸部及び膝関節にかかる傷病、脱臼、その他基金から指示があった場合、この報告書を提出してください（災害性腰痛については、災害性腰痛事案報告書に記載してください。）。

注2 認定請求傷病と同一部位に係る傷病全てについて、記載してください。

注3 記載した傷病が過去に公務（通勤）災害と認定されたものの場合、その認定番号を傷病名の欄に記入してください。

上記のとおり報告します。

令和○年○月○日

地方公務員災害補償基金神奈川県支部長 殿

所 属 ○○警察署
職 ・ 氏名 巡查 ○○ ○○